

# 3度目の感染拡大により景況感後退

## 11月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

### 概況

新型コロナウイルス感染拡大の第3波を受けて、前月「小雨」に回復した天気図が再び「雨」に戻った。前年並みに回復しつつある業種からも今後を不安視する声が多く聞かれる。また、Go To トラベル事業により回復し始めた旅館業やそれに関連する業種は、年末年始に再び業況が落ち込むことを懸念している。

製造業	食料品		パンは、新型コロナ感染拡大の第3波で業況悪化に転じる。製麺は、業務用需要が前年の7～8割程度と低調に推移。酒造は、消費税増税により落ち込んだ前年と同程度の売上。食肉は、前年同月比で取扱量は減少しているが、家庭用需要は安定的に推移。菓子業は、店売りが順調なほか、観光地での売上が回復傾向。
	繊維・同製品		桐生織物は、婦人服地・和装関係ともに依然として厳しい状況。刺繍は、ネット販売が好調な反面、百貨店や専門店などの販売が厳しく、発注数量が大幅減少。繊維製品は、落ち込みが続く中、販路開拓や新規事業立ち上げなどの動きが出始めた。伊勢崎織物は、売上・収益ともに前年並みに推移。
	窯業・土石製品		コンクリートブロックは、業況悪化に伴う工場閉鎖が発生。生コンは、西毛以外の地区で出荷量が前年を下回り、特に県央部・東毛地域の落ち込みが大きい。砂利は、需要・供給ともに減少し、依然好況感は感じられない。碎石は、引き続き吾妻・西毛地域で好調だが、運搬用ダンプ不足や在庫数量の減少が生じている。
	機械・金属		全体として、新型コロナ感染拡大の第3波を受けて先行きの不透明感が増しており、今後を不安視する状況。自動車関連は、大手メーカーの業績回復を受けて概ね前年並みの生産量に回復している。また、半導体は、電子部品・スマートフォン・データセンター関連の需要が高まり、増産傾向となっている。
	その他の製造業		木材は、原木高・販売単価安が続く中、高品質な木材以外は需要がなく荷動き低調。紙加工品は、前月より動きは活発になっているが、休日増や時短操業を続ける取引先もみられ予断を許さない。印刷は、経営環境の改善がみられる。ゴム製品は、大幅な落ち込みから急速に回復し、前年並みに戻りつつある企業が増加。
非製造業	卸売業		原材料や人件費などのコスト増加並びに人材確保への対策が課題となっている。建築資材卸は、業界全体として足踏み状態が続く業況悪化。農産物卸は、豊作の影響で値崩れを起こし、安値取引となったため売上減少、さらに、コロナ感染拡大に伴う年末年始の旅館・飲食店の需要減を不安視。
	小売業		家電小売は、新型コロナの影響で加湿器の仕入が困難な状況。中古車オークションは、本来であれば取引が増加する時期だが、コロナの影響もあり低調。燃料小売は、引き続き需要が回復基調。生花小売は、店売りは前年並みに持ち直したが、イベントが少なく苦戦が続く。商店街は、感染者数増加に伴う来街者減少が顕著。
	サービス業		温泉旅館は、Go To トラベルの恩恵が大きく、客室稼働率や宿泊者数は好調だが、新型コロナ感染拡大を受けて12月の予約キャンセルが出始めており、先行き不透明。建築設計は、コロナ感染防止に向けた建築技術の導入を目指している。自動車整備は、売上・収益ともに前年並み。
	建設業		建設工事は、公共工事減少並びに民間需要停滞が継続。解体工事は、テナント入替時の内装解体の引合いがある。電気工事は、学校関係の通信システム導入工事を県内各地で受注。塗装工事は、多くの入札公共工事発注により前年並みの仕事量を確保。鉄構は、安値受注事業者の出現による業界全体の単価下落を懸念。
	運輸業		新型コロナ感染拡大による輸送量の減少が続く、非常に厳しい経営状況が続く。こうした中、仕事を確保するために組合事業を活用して荷受けを行う事業者が増加。野菜関連は、天候に恵まれ葉物野菜を中心に良好。小口配送は、引越は前年並み、医薬品P E Tは多少増加となったが、スポット配送は減少傾向。

※本調査は、情報連絡員55人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

### 県内の主な経済指標

●鉱工業生産指数(季節調整値) 95.9(前月比▲1.9%)「県統計課・10月」  
●求人倍率(季節調整値) 新規2.03倍・有効1.15倍「群馬労働局・10月」

●大型小売店販売額 272億円(前年同月比+10.3%)「経済産業省・10月」  
●消費者物価指数(全国) 101.8(前年同月比▲0.4%)「総務省統計局・10月」  
(鉱工業生産指数は27年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)